

# 鹿児島県における公的カード及び 商店街カードの実態について

平成28年3月24日

鹿児島県企画部情報政策課長

赤間 広嗣



# 公的カード

## ○調査先

県庁各所属

県内全43市町村情報政策担当課

## ○調査日

平成28年2月19日～29日

## ○調査内容

「図書館」，「病院」，「スポーツ施設」，  
「その他」での利用者IDカード等の利用状況



※ 県内の全てのカード等の状況を把握できていない。

# 公的カードの発行状況

## ○公的カード

地方公共団体の図書館や病院, その他施設等で発行している利用者カードや, 高齢者元気度アップポイントなどで発行しているカード

調査の結果, 鹿児島県では . . .



県全体で約284万枚が発行

内訳

県	・ ・	約72万枚
市町村	・ ・	約212万枚



# 公的カードの発行状況

## ① 図書館カード

県全体・・・・・・・・・・約92万枚

— 県発行枚数・・・・・・・・約16万枚

— 市町村発行枚数・・約76万枚(30市町村)

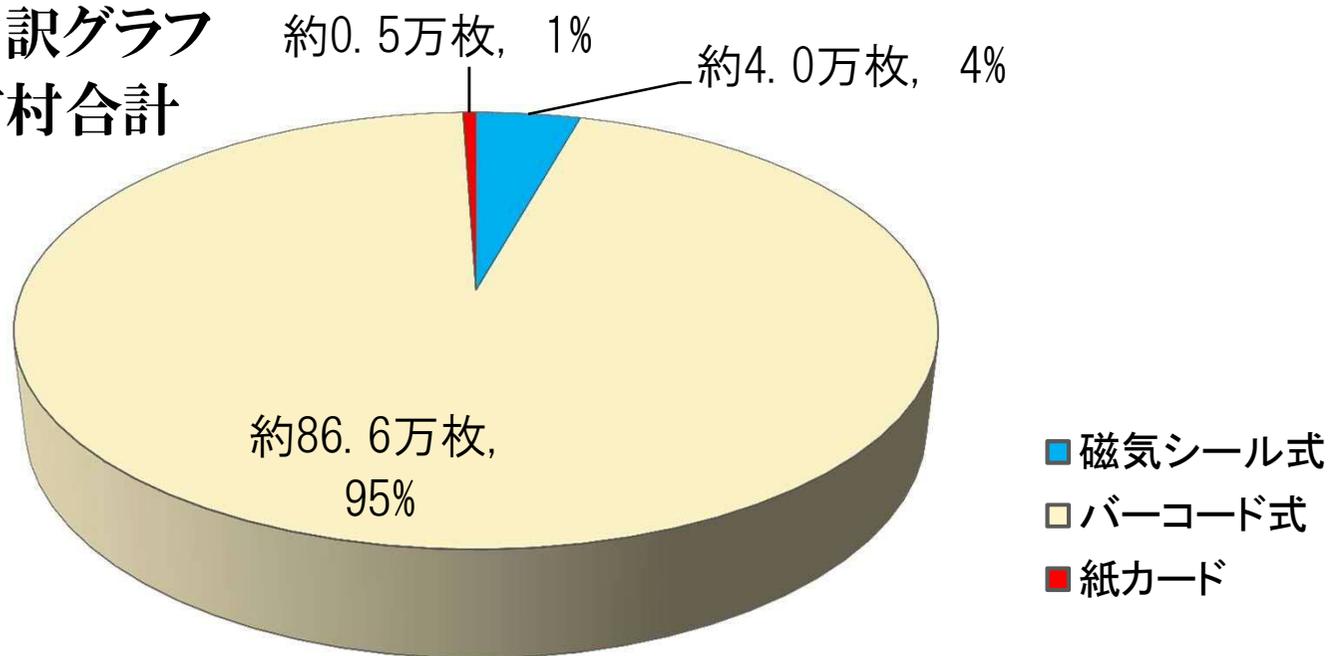
※ 図書館カードは有効期限がないため、累計の発行枚数を集計。



# 媒体別内訳

媒体	発行枚数		
	県	市町村	市町村数
磁気シール式カード		約4.0万枚	2市1町
バーコード式カード	約15.6万枚	約71.0万枚	13市12町
紙カード		約0.5万枚	2市

媒体別内訳グラフ  
県・市町村合計



## 県立図書館での年齢別発行枚数

県立図書館 本館 (平成26年度分) 総数3,605枚	0～12歳	13～18歳	19～30歳
	787(22%)	241(7%)	841(23%)
	31～50歳	51～70歳	71歳～
	1,011(28%)	597(17%)	128(3%)
県立奄美 図書館 (平成26年度分) 総数938枚	0～12歳	13～18歳	19～30歳
	263(28%)	72(8%)	106(11%)
	31～50歳	51～70歳	71歳～
	301(32%)	174(19%)	22(2%)



## 県立図書館での総発行枚数等

県立図書館 本館	総発行枚数	発行開始時期	平均発行枚数 (年度毎)
	129,436	平成6年4月	3,605(26年度)
	カード媒体経費	システム開発経費 平成22年度更新	システム運用経費
	57.7円/枚	約1億3,000万円	開発経費に含む
県立奄美 図書館	総発行枚数	発行開始時期	平均発行枚数 (年度毎)
	25,961	平成6年4月	938(26年度)
	カード媒体経費	システム開発経費	システム運用経費
	99.4円/枚	県立図書館に含む	県立図書館に含む

※ カード媒体は、個別に調達しているため経費が異なる。



## ○鹿児島県立図書館の利用者カードについて

### 有効期限

- ・ ない(前回住所確認1年経過後は, 利用時に住所確認が必要)

### 利用可能場所

- ・ 本館及び奄美図書館の相互利用が可能

### カードへの記載事項

- ・ 利用者番号, 氏名, バーコード

性別や住所が記載されたマイナンバーカードを図書館カードとして児童や生徒に持たせるのは少し抵抗を感じる保護者も



## ○鹿児島県立図書館の利用者カードについて

### 発行を受けることができるのは

- ・ 県内に住所又は勤務先を有する者
- ・ 県内の学校に在籍する者
- ・ 帰省者(帰省先が確認できること)
- ・ その他, 館長が認めた者

### 発行に必要なもの

- ・ 利用登録書  
※記載する事項  
本人情報(氏名, 性別, 生年月日, 住所, 電話番号)  
保護者情報(氏名)※本人が中学生以下の場合  
勤務先情報(名称, 住所, 電話番号)  
帰省先情報(住所, 電話番号)
- ・ 運転免許証などの証明書類  
(現住所を照合し, 本人であるか確認)



## ○鹿児島県立図書館の利用者カードについて

### カードの利用場面

- 書庫資料の館内利用（「利用者カード」と「資料」のバーコードをスキャン）
- 書籍の貸出（「利用者カード」と「書籍」のバーコードをスキャン）
- 書籍の予約（「利用者番号」を入力）

利用者カードの発行を受けられる者は、条例等により限られている。



# 公的カードの発行状況

## ②公立病院(診察券)

県全体・・・・・・・・・・・・・・・・約154万枚

└ 県発行枚数・・・・・・・・約56万枚(5病院)

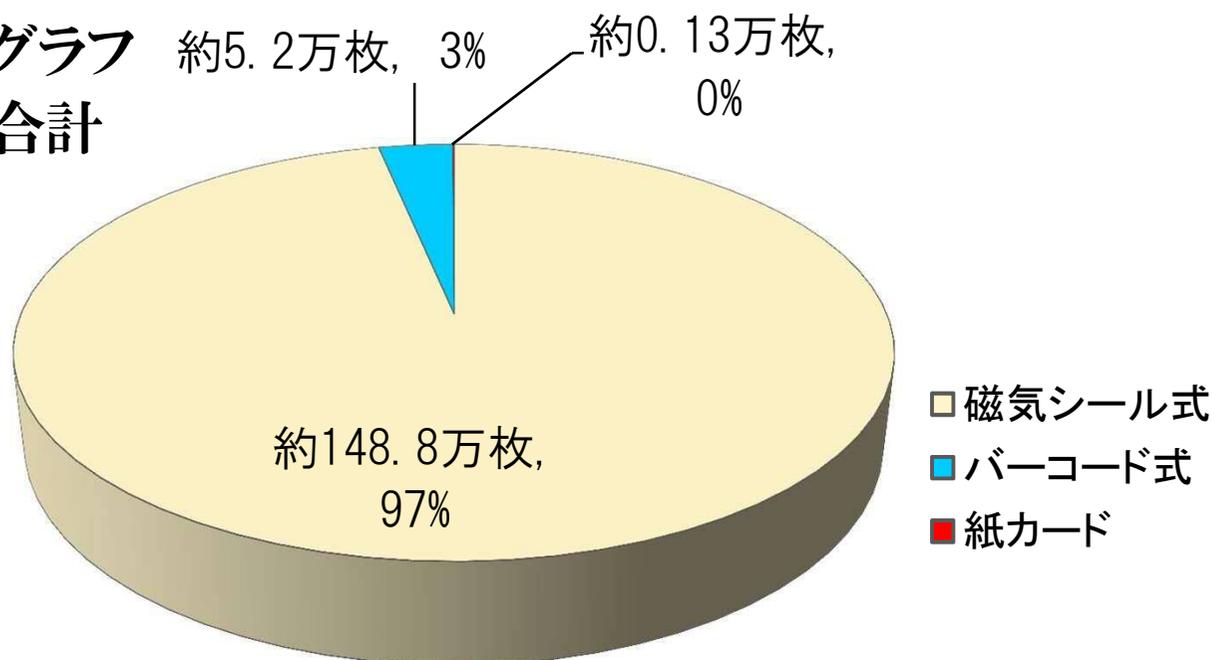
└ 市町村発行枚数・・・・約98万枚(5市町)



# 媒体別内訳

媒体	発行枚数		
	県	市町村	市町村数
磁気シール式カード	約55.6万枚	約93.2万枚	3市
バーコード式カード		約5.2万枚	1市
紙カード	約0.1万枚	約0.03万枚	1町

媒体別内訳グラフ  
県・市町村合計



## 県立病院での総発行枚数等

①鹿屋医療センター	総発行枚数(集計時期不明)	平均発行枚数(年度毎)	カード媒体経費
	約200,000	約5,000(26年度)	31.3円/枚
②県立大島病院	総発行枚数(H11～累計)	平均発行枚数(年度毎)	カード媒体経費
	152,752	1,810(26年度)	不明
③県立始良病院	総発行枚数	平均発行枚数(年度毎)	カード媒体経費
	不明(有効980)	約700枚	印刷代43円/枚
④県立薩南病院	総発行枚数	平均発行枚数(年度毎)	カード媒体経費
	不明(有効8万)	約5,000(26年度)	約20円/枚
⑤県立北薩病院	総発行枚数(H11～累計)	平均発行枚数(年度毎)	カード媒体経費
	123,000	3,000(26年度)	36.7円/枚

※ カード媒体は、各病院において個別に調達しているため経費が異なる。



## 《参考》

- ①鹿屋医療センター  
〒893-0013  
鹿児島県鹿屋市札元1丁目8-8
- ②県立大島病院  
〒894-0015  
鹿児島県奄美市名瀬真名津町18-1
- ③県立始良病院  
〒899-5652  
鹿児島県始良市平松6067
- ④県立薩南病院  
〒897-1123  
鹿児島県南さつま市加世田高橋1968-4
- ⑤県立北薩病院  
〒895-2526  
鹿児島県伊佐市大口宮人502-4



## ○県立の各病院の診察券について

### 有効期限

- ・ ない(受付時に住所等確認)

### 発行の仕組み

- ・ 初診時に、基本情報などを電子カルテシステムに登録し、発行
- ・ 紛失やカードの劣化などにより再発行

### カードの利用場面

- ・ 診察の受付、予約の際に、端末にカードを通す。



# 公的カードの発行状況

## ③スポーツ施設(利用者証)

(市町村が管理しているスポーツ施設の利用者カード)

県全体・・・・・・・・・・約7万枚

市町村発行枚数・・・・約7万枚(7市町)

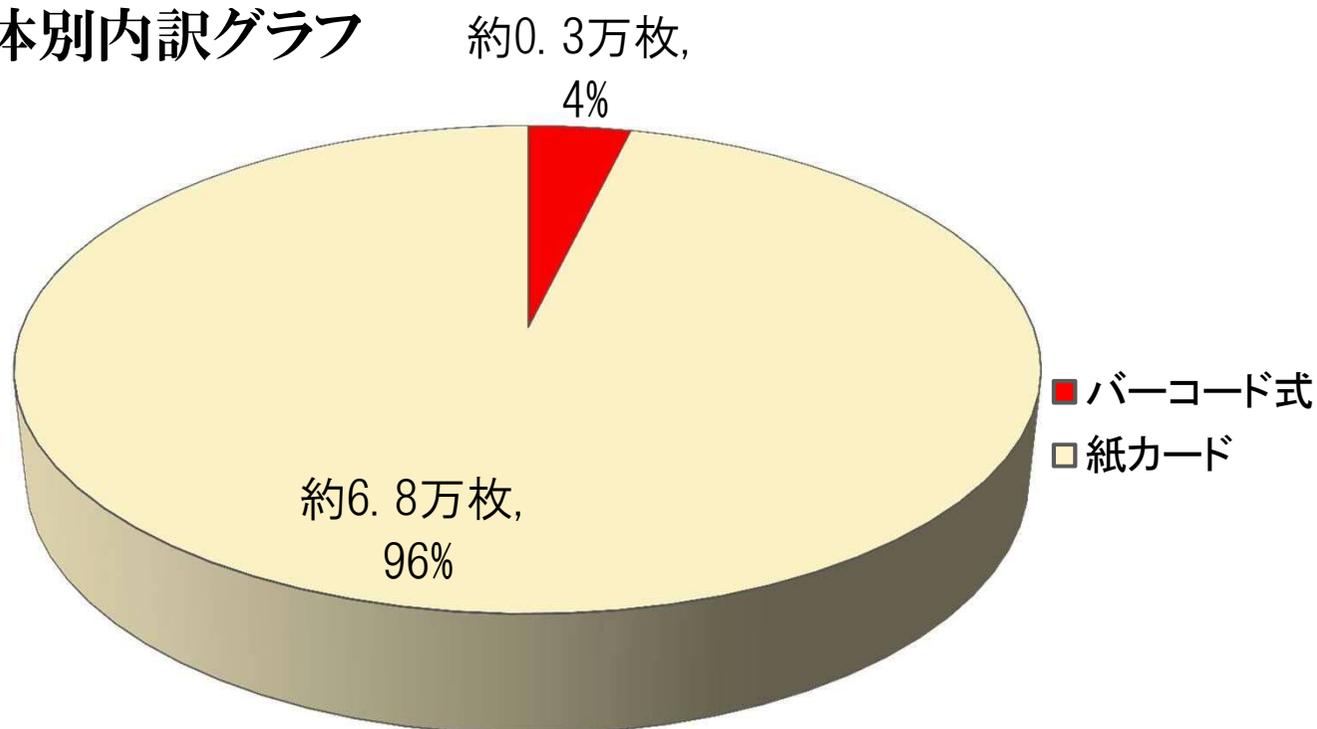


※ 県では発行していないため、市町村分のみを集計。

# 媒体別内訳

媒体	発行枚数	
	市町村	市町村数
バーコード式カード	約0.3万枚	1市2町
紙カード	約6.8万枚	3市1町

媒体別内訳グラフ



# 公的カードの発行状況

## ④その他の施設等でのカード等

美術館，動物園，水族館などの公共施設の入館カードなど。

県全体・・・・・・・・・・・・・・約32万枚

└ 県発行枚数・・・・・・・・・・・・約0.7枚

└ 市町村発行枚数・・・・・・・・約31万枚(22市町村)

※ その他については，把握できる範囲で調査をしているため，全てのカードを把握できているわけではない。

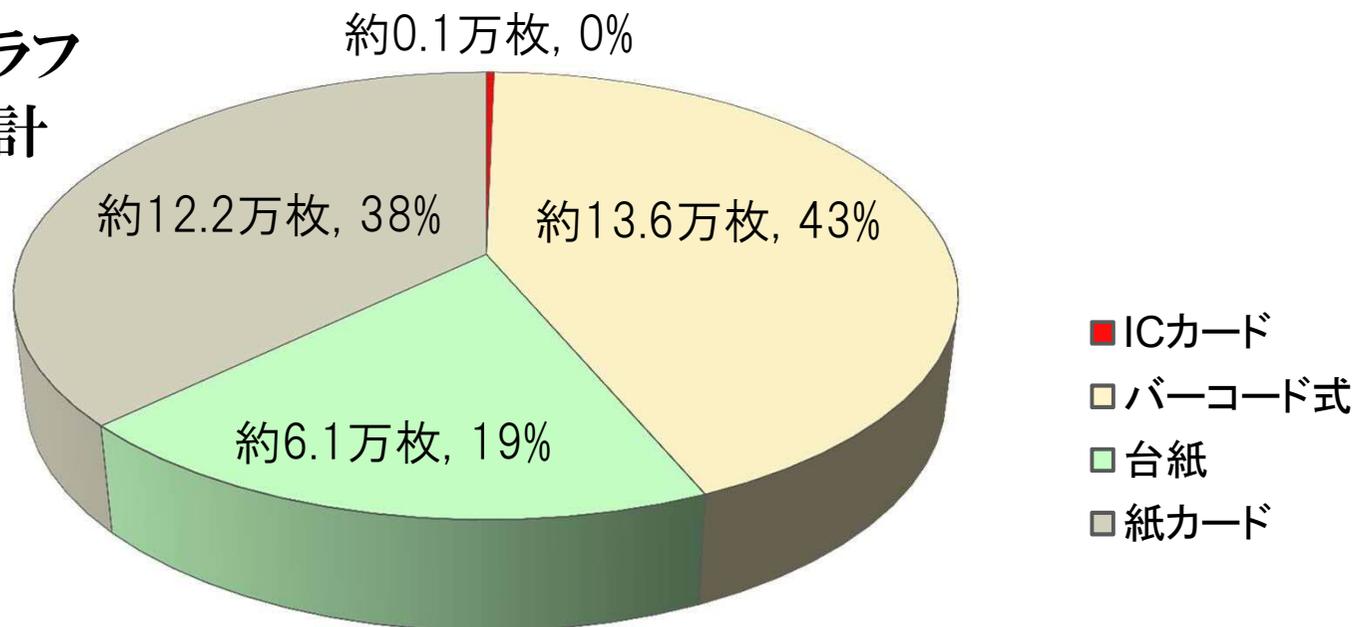


# 媒体別内訳

媒体	発行枚数		
	県	市町村	市町村数※
ICカード		約0.1万枚	1市
バーコード式カード		約13.6万枚	1市
台紙		約6.1万枚	5市2町
紙カード	約0.7万枚	約11.5万枚	4市12町1村

※ 市町村数は、重複含む。(複数の媒体のカードを発行している)

媒体別内訳グラフ  
県・市町村合計



## 用途別内訳

用途	発行枚数		
	県	市町村	市町村数※
施設の入館	約0.4万枚	約10.5万枚	2市
元気度アップポイント		約4.0万枚	5市4町1村
生涯学習情報システム 利用者証		約8.0万枚	1市
離島航空割引カード		約7.6万枚	1市12町1村
エコ通勤割引パス	約0.2万枚		
その他サービス	約0.1万枚	約1.2万枚	1市

※ 市町村数は、重複含む。



## 施設の入館カードの施設別内訳

施設	発行枚数		
	県	市町村	市町村数
美術館	約0.5万枚	約0.1万枚	1市
動物園		約2.0万枚	1市
水族館		約2.2万枚	1市
子育て支援施設		約4.0万枚	1市
高齢者福祉 センター		約1.7万枚	1市
その他 (近代文学館, ばら 園)		約0.5万枚	2市



## 《参考》各用途について

### ① 元気度アップポイント

登録された高齢者や高齢者を含むグループが行った、健康診断、高齢者の見守りなどの活動に対してポイントを付与する。貯まったポイントは地域商品券などに交換。

### ② 生涯学習情報システム

鹿児島市の開催する講座などにインターネットから申込みができるシステム。利用の際には、利用者登録が必要となる。

### ③ 離島航空割引

鹿児島県の離島航空路線及び航路において、離島住民（住民登録をしている人）を対象に、航空運賃及び船舶運賃の割引をしている。

### ④ エコ通勤割引

自動車や原動機付自転車で通勤をしている人を対象に、毎週水曜日にバスや市電で通勤すると運賃が半額になる。

### ⑤ かごしまリユースポイントカード

鹿児島市の環境未来館に不要な日用品等を持ち込むとポイント付与。貯まったポイントは商品と交換。

### ⑥ コミュニティサイクル(かごりん)

 鹿児島市内20か所に設置されているポートで自転車を借りられる、返せるサービス。

# 商店街カードについて

## ○商店街カード

商工会や通り会などで，購入金額に応じてポイントを付与し，貯まると割引に使えるといった商店街活性化のために発行しているポイントカード

鹿児島県内では . . .

全体で8市10町の24の商工会，通り会などが発行している。

※ 調査期間が短く，把握できる範囲での回答であるため，漏れているカードもあると思われる。



## 媒体別内訳

※ 市町村数は、重複含む。

媒体	発行枚数	
磁気カード※	約7.6万枚	10団体 4市3町
磁気カード※	把握せず	7団体 2市5町
その他(台紙や紙カード)	把握せず	7団体 3市2町

### ※ 磁気カードについて

リライト方式磁気印字カード、磁気印字スタンプカードなど、購入額に応じて数字を書き換えたり、スタンプを印字するカードをまとめて磁気カードと表記しています。

スタンプやシールを貼る台紙や、紙の媒体を使用している場合は、発行枚数を把握していない。



# 商店街カードの状況

カードを導入している商店街

- ポイントカードを発行している県内の商工会議所、商工会、通り会などでは、発行枚数まで把握しているケースは少ない。
- 運用経費の取扱いなどを外部に委託して、商店街の負担を減らしているところもある。
- 店舗の端末から顧客情報を管理しているサーバに情報が保管され、店舗からの要請があれば客層などのデータを提供できるようにしている商店街もある。



# 商店街カードの状況

カードを導入していない商店街

○ **ポイントカード導入には、多額の経費と労力を必要とするが、コストパフォーマンス向上や売上増加につながるかわからないため導入まで至っていない。**

- カードシステムの開発・運用経費，ポイント原資といった経費がかかる。
- 店舗へのポイント分の集金や還元の方法，誰が管理をするかなど，導入するための課題がある。
- 万が一，店舗が突然なくなった場合に，その店舗のポイントをどのように扱うかが困難。
- ポイントカードは貯めたポイントの換金の仕組みが難しいため，賛同が得られにくい。



# 個別店舗のポイントカードの状況

ポイントカードを導入している店舗

- 店舗によっては、貯めるポイントを複数のポイントから選択できる場合もある。
- 複合型商業施設では、各テナントで発行しているポイントカード以外にも、施設全体で使用できるカードもある。
  - 複数のカードを持ち歩く必要がある。
- クレジット機能付きのポイントカードなどは、入会時にキャッシュバックなどを行っている。
  - 顧客へ「メリット」をアピールし入会促進。



# まとめ(商店街等の意見及び感想)

※いくつかの商店街，複合型商業施設にマイキープラットフォームの概要について説明をしたうえでの意見



いいね！



ここがむずかしい・・・

- ・ カードが1枚に集約できる。
- ・ 個人番号を使わない。
- ・ 新規カードが発行不要。
- ・ 割り勘効果で費用が安くなる。
- ・ マイキープラットフォームを作るメリットがよくわからない(費用や仕組みなど)。
- ・ 怖いものというイメージなどからマイナンバーカードを持ち歩かないのでは。
- ・ カードのリーダライターの各店に設置する必要が生じ，負担増になるのでは。



## まとめ(商店街等からの要望)

こういった機能や仕組みがあれば・・・



- 複数のポイントが使える店舗では、どのポイントを貯めるか自分で選択できるような仕組みがほしい。
- ポイント残高がレシートなどで見えれば、貯める意欲が湧く。
- クレジット機能やプリペイド機能などがこれまでと同様に使えるようにしてほしい。
- キャッシュバックやポイント増加などの目に見えるメリットがあれば、プラットフォームに登録するのではないか。



# まとめ(商店街が取組むための課題)

- ・プラットフォームを活用することの有用性, メリットを具体的に示す
- ・プラットフォーム活用後に, ポイントカードのシステム維持にどれくらいの費用がかかるかを具体的に示す(これまでと比べてどうなるのか? 減るのか? 増えるのか?)
- ・導入経費や運用経費の負担感を減らす  
(システムを構築済みの場合は, プラットフォームの分担金が負担増に感じる)
  - 例えば, ①導入に関する補助金の検討
  - ②補助金がなくなっても継続的に参加可能な仕組みの構築やリーズナブルな料金設定
- ・個々の店舗のリーダライターの設置費用の軽減
  - 例えば, ①リーダライターの費用に関する補助金の検討
  - ②スマートフォン等でマイナンバーカードのマイキーを読み取る方法(アプリなど)の開発

